

ふるさと再発見

第4回

Re:discovery Omihachiman

夜空を焦がす火柱が圧巻 八幡まつり



燃え上がる大小の松明たいまつの炎が陽春の夜空を焦がす日牟禮八幡宮の例大祭「八幡まつり」(国選択無形民俗文化財)が、毎年4月14日、15日に行われます。八幡まつりは、西暦275年に応神天皇が近江の地に行幸された際に松明を灯したのが始まりと伝えられている由緒ある大祭です。農村部の上之郷8郷(市井、多賀、北之庄、大林、宇津呂、中村、土田、鷹飼)と下之郷4郷(小船木、船木、南津田、大房)あわせて12郷が松明を燃やし、五穀豊穡と無病息災を祈ります。

14日の宵宮祭は、「松明まつり」と呼ばれ、琵琶湖畔や水郷に生殖するヨシや畑で栽培した菜種がらなどで作った約2.5メートルから約10メートルにおよぶ大小約30本の松明が日牟禮八幡宮の馬場に並べられるなどして奉納されます。夕刻には、順に各郷の松明に奉火され、勢いよく春の夜空に燃え上がる大松明や、火をつけながら手で振りかざす「振松明」などが圧巻です。15日本祭の「太鼓まつり」は、各郷自慢の太鼓を氏子が担いで練り歩き、太鼓の荘厳な音色の競演を繰り広げます。

『松明結の心』を大切に

(石井さんにインタビュー)



八幡まつり保存会
会長 石井文造さん

このまつりは、集落の人々の力を結集して松明をつくる「松明結たいまつゆい」から始まり、松明の奉火そして太鼓を担いでの社参(神社への参拜)で終わります。

松明結は「結」の字のごとく、郷の氏子が老若を問わず心を一つにして結び合わせないと、美しく映える松明ができません。同時に太鼓の社参も心を一つに結集することこそ、その神髄があるのです。

単なるまつりではなく、先人の知恵を継承しながら、共にひとつのものを作り上げるといふ地域のつながりが根底にあってのまつりであることが、千数百年の伝統を維持して、綿々と受け継がれている要因となっているものと思えます。

また、まつりの「安全」は、事前の計画・準備から始まっています。今年も事故のない安全なまつりが挙行されることを祈っています。

人口と世帯 平成31年3月1日現在 ()は前月比

総数	82,110人 (-49)
男	40,372人 (-3)
女	41,738人 (-46)
世帯	33,572世帯 (+21)

※外国籍住民(37カ国・地域/1,369人)を含みます。

テレビ画面で広報紙
びわ湖放送にチャンネルを合わせ
リモコンのdボタンを押し!



広報おうみはちまんは、各自治会を通じてお届けします。また、各学区コミュニティセンターや図書館などの公共施設のほか、市ホームページやマチイロ、マイ広報紙でもご覧いただけます。

